

## 【釋尊の御生涯】 掛け絵の説明

### ① 誕生 4月8日

北インド（現在の国名でいうと**バール国**）ヒマラヤ山脈の麓、**カピラヴァストウ**（**カピラ城**）の釈迦族の王**スットーダ**、妃**マヤー**の子として、郊外の花の咲き乱れる**ルンビ園**、**無憂樹**（**菩提樹**）ととも、**インド三大聖木**の一つのもとで**西暦紀元前463年4月8日**、ご誕生になられた。姓名は、**ゴータマ・シッダルタ**です。

### ② 憂い

太子は19歳で**コリ城主**の娘、**ヤシヨダラ姫**と結婚、王子**ラダ**を授かりました。ある時、城で矢に射られた一羽の鳩を介抱しながら、**生き物同士がなぜ傷つけ合うのか**と憂いに沈まれた。

### ③ 四門出游 16歳

城の**東門**から遊びに出られたことがありました。その時道にあえぎつつ歩む**老人**に出会われました。**南門**からの時は、**病に苦しむ人**に出会い、**西門**よりの時は、**葬儀**の列に出会った。そして、人間の代表的な苦とされる老病死について深く考えられた。**北門**からのときは**僧**に出会い、その気高い態度を見て、**人間の苦を解決すべく**城を捨てるべきではないかと次第に考えるようになられた。

### ④ 出家 29歳

太子は出家を決意し、御者**シャク**のひく**愛馬カンダカ**に乗り**城**を出られた。

### ⑤ 苦行 35歳

太子は**ビハリ国**の**シバカバ仙人**を訪れ苦行に入られた。これより様々な**苦行**を**6年**続けられた。

### ⑥ ジャータ

苦行は無効であった。太子は**いたずらに肉体を苦しめるより**、食をとって身体を養い、**心の上よりさとりを得よう**と思いたち、**ニレンゼン河**に水浴し、弱った体をはげまし村の中へ入られた。そこで娘**ジャータ**より、粥（牛乳粥）をいただき、体力気力を回復された。森の中の**ヒッラ樹**（**菩提樹**）の下に座し、「今さとりをうることはできないなら、生きてこの座を立たない」と自ら誓われた。

### ⑦ 降魔 35歳

太子の心を乱そうという様々な**悪魔**と戦い勝たれた。

### ⑧ 成道 35歳 12月8日

このようにして太子は**悟りに**いたりました（**成道**）。かくして太子は、**正しき悟りの人**、即ち**仏陀**となられた。時に、太子**35歳**、**12月8日の暁**、夜明けの明星のきらめくときであった。これより太子は、人々より**釈尊**、**仏陀**、**世尊**、**お釈迦様**と言われるようになった。

### ⑨ 初転法輪 35歳 12月8日

お釈迦様（釈尊）は、法（真理）を伝えるため、ペナレスの**鹿野苑**におもむき、かつて苦行をともした**5人の比丘**（僧）に**あい伝法**された。この人たちが釈尊の最初の弟子となった。

その後釈尊は、**祇園精舎**、**竹林精舎**など**印度中**を仏の教えを説いてまわられた。

### ⑩ 帰城 80歳

御父・**カピラヴァストウ**（**カピラ城**）の釈迦族の王**スットーダ**の要請により、釈尊は**帰城**し、法（真理）を伝えられた。そして釈迦族すべてが**仏教**に**皈依**したという。

### ⑪ 涅槃 80歳 2月15日

45年にわたる伝法ののち、**バーバ**にて病をえた釈尊は、**クナラの沙羅双樹**の下で、**アナンダ**（**阿難**）らの弟子へ最後の説法ののち、**涅槃**に入られた。時に釈尊**80歳**、**西暦紀元前383年2月15日**の明け方でありました。

なお、浄土真宗のご門徒は、**法名**の**ミヨウ**に必ず「**釋〇〇**」と釋の字がつきますが、これは宗祖親鸞聖人が「**釋親鸞**」と名乗られたことによりますが、この聖人の名乗りは、人間として、いのちの真実を悟り、われらにそれを教えられた**お釈迦様**（**釋尊**）の弟子になるのであるから、**師匠のお釈迦様**（**釋尊**）の**釋**の一字をいただいたということなのです。